

プリエールねっと通信



2026.3 月号

目次

お知らせ	1
プリエールねっと総会へのご案内	
報告	2
合同自主企画講座 産後ケア、不登校ケア	
報告	3
市民企画講座 ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム	
報告	4
痛快 映画「女性の休日」	

《通信発行者》

プリエールねっと広報担当
芦原 康江
角 智子

□おしらせ

プリエールねっと総会へのご案内

プリエールねっとの令和8年度総会を下記のとおり開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。

今回は、学習研修部からのお知らせにあるように、市民企画講座について改訂が諮られることになっています。より皆さんが企画しやすく、参加しやすい講座になるよう、皆さんと一緒に考える機会にしたいと思しますので、ぜひご参加ください。

プリエールねっと令和8年度総会

日時：4月18日（土） 13:30～

場所：松江市市民活動センター 506

今年度の決算及び事業報告と今年度の活動計画、予算などについて審議します。

＜市民企画講座改訂に関する事前のお知らせ＞

令和8年度より、市民企画講座を使いやすくするための改訂を予定しています。補助金の用途を拡充するとともに、申請受付期間を設ける方向で検討しています。春の総会で決定後、あらためてご案内いたします。HP等でご確認ください。

学習研修部

3月8日は国際女性デー
皆さんご存じのとおり、3月8日は国際女性デーです。この日を記念して各地で様々なイベントが開催され、プリエールでも映画「女性の休日」の上映会が開かれました。（報告はP4に掲載）

女性が平等に政治、経済的な活動にも参加し、性差のない状態が作り出せるように、今年の国際女性デーを機に、何か1つ自分からアクションしてみたいかがでしょうか。

ご存じですか？
11月19日は国際男性デー
国際男性デーは、1999年、カリブ海のトリニダード・トバゴ共和国で始まった記念日です。家庭内暴力、犯罪、失業、教育格差という課題が深刻で、若い男性たちの非行や暴力が多い社会を変えたいと、トリニダード・トバゴ大学講師のジェローム・ティエラックシン氏が提唱されました。
国際男性デーは、社会や文化的に作られた男性のイメージにとらわれることなく、性別による役割分担、ジェンダーの平等、男性の健康や、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）について、考える日とされています。「男らしさ」「男はこうあるべき」という社会的な規範から自由になつて、一人ひとりが自分らしく生きられる社会の実現を目指そう、ということです。



産後ケア・不登校ケア



1月17日にプリエールねっと合同自主企画講座として「産後ケア、不登校ケア 講演会&お話し会」を開催したところ、30名の参加がありました。

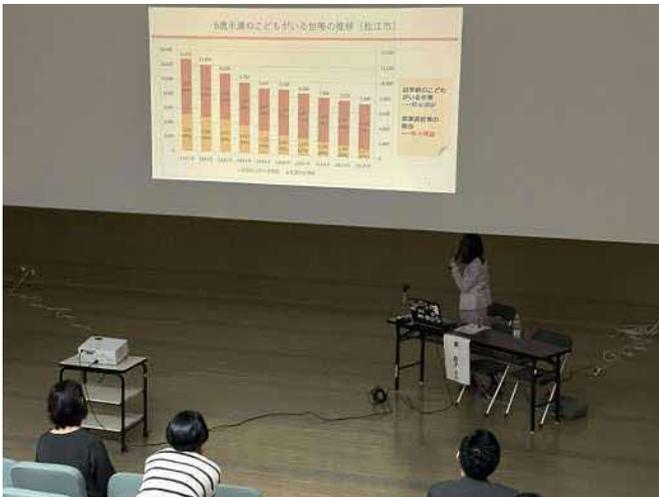
女性が仕事を辞める理由の一つに「育児と介護」の問題があります。今回は障害・不登校・ひきこもりなどによるこどものケアを担いながら働き続けることを考えてみよう企画されました。

Aya 母乳育児相談室の坂本亜也子さんは、産後ケアの実情を紹介し、「困ってからではなく、安心して子育てするために産後ケアはあります。遠慮しないで使ってください。」と話しました。

こども訪問看護ステーション Kahana(カハナ)の島津偉匡さんは、小児訪問介護で不登校、発達特性のあるこどもへの支援を行っている実情を紹介し、「健康な命がつながり続ける地域をつくることをモットーに、家庭と社会をつなぐハブの役割を果たしたい。」と話しました。



過やインスタを使って発信していることなどが話されました。「こどものケアは母親に一手にかかってくるのがあたりまえと思われてきた。家族も地域も一緒にケアする社会にするために、もっと男女共同参画が必要です。」の発言が印象的でした。（報告：山崎）



松江市こども子育て部こども家庭支援課長峯彰子さんは、松江市が取り組んでいる子育て支援を紹介しました。「こどものショートステイ、産後温泉ゆったりケアなど新しい支援事業も人気です。様々な支援があるのでぜひ相談してください。」と話しました。

第2部のお話し会では、活発に意見交換を行いました。不登校の親の会とこどもの居場所を作った経験からの発言や、発達障がいのある親の会をつくった経



※松江市の産後ケア事業

松江市では母乳や育児のことなどで戸惑ったり、不安になったりしている人たちのために、少しでも安心して子育てができるよう、産後ケア事業を実施しています。個別型、集団型など様々な形のケアがあります。詳しくは、松江市のホームページ(下記のQRコードから産後ケアのHPに)をご覧ください。



ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム

結婚して母になって、女性の生活はガラッと変わります。仕事と家事育児、子どもファーストの忙しい生活で、自分の時間がなかなか持てなくなります。母でもなく妻でもなく私のお話をしようと、2月21日に『ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム』を開催しました。

3人のママパネラーは、時間いっぱい経験や思いを語りました。改めて自分や夫、社会にある性別役割分担意識などに気づいたこと、ワンオペ育児の経験、期待とあきらめの葛藤、夫婦で話し合っ乗り越えたり、手放したり…。そして、自分軸で選択すること、人を頼ること、自分のための時間を持つことが、ママの笑顔や幸せになり、子どものしあわせにつながる。打ち合わせしたわけではありませんでしたが、3人のママパネラーの思いは共通していました。

後半は、3人組になってお互いに話を聞きました。参加したママの感想に、「もっと話をしたかった」と複数あり、このトークタイムをしっかりと1時間程度は確保することが次回への改善点です。感想には他に「今日、子どもたちを旦那に任せてフォーラムに来れたことも自分時間を大切にすることにつながったと思、ナイス一歩！と思えた。」「ママになって自分の「人と比べてしまう」クセを直したいとあらためて思った」「自分を振り返ったら、確かにこういった話をする



時間を持ったことがなかった。気づけば、上の子どもが生まれて4年間で一度も夜に出かけたことがなかったと気づけた」など、ママたちがどれだけ日々頑張っているかが伝わってきました。

今回は参加者10名でこじんまりしたフォーラムになりましたが、ママたちの「じぶん時間」は大事だということを再確認できました。今後も開催する曜日や内容を試行錯誤しながら積み重ねて、「ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム」を育てていきたいと思いました。



痛快—映画「女性の休日」

ジェンダーギャップ指数の世界一位を16年間もキープし続けているアイスランドが、どうやってその地位を獲得していったのか、日本で暮らす女性として興味津々です。56年も前にアイスランドの90%の女性が一斉にストライキを行ったという衝撃の事実が映画化され、話題となっています。ちょっと観てきましたので、紹介します。

そもそも、1970年のアイスランドは性別役割分業の社会で、専業主婦が最も幸せとされ、政治の話も農業組合の会合も女性を排除。女の入会は未亡人だけ。男性と同じように働いても、女性は低賃金のまま。「結婚したけど、私は夫の一部じゃない」という不満が、あちこちに渦巻いていたのだそうです。

いや、これって日本も全く同じ状態でしたよね。昨年の日本のジェンダーギャップ指数は118位。アイスランドと比較にもなりません。なぜ、56年間でここまで違ってきたのか？疑問を紐解く鍵が、この映画に詰まっていた。

ストライキの発端は、1975年の国際婦人年にアイスランド女性会議に集まった女性たちが、「どうしたら国民に、女性がいないと社会が破綻するとわからせられるのか」を話し合ったことから始まります。フェミニスト女性団体のレッドソックスの女性たちからストライキが提案されたものの、過激だと批判もあり、結局、「休日」にすることで誰もが納得したのです。

「休日」は10月24日。そこまで女性たちは電話をかけまくり、新聞広告を出し、会社と交渉して休日を勝ち

とっていきます。当日、ある女性は止める夫を振り切り、子供を置いて出かけて行ったそうです。「世界を変えに行く」と言って出かけて行った女性も…。この日、夫たちは、初めておむつを替え、食事を作ることになりました。ありとあらゆる会社が、この日は営業できず、本当に、社会にとって女性たちは欠かせないことを「休日」(ストライキ)が証明してみせたのです。続々と集まってくる女性たちのシーンは圧巻です！

準備を進めてきた女性たちの回想で構成される映像ですが、そこに映し出される女性たちは笑いながら語っています。男性はもとより、主婦でいいと思っている女性たちからも、様々な罵詈雑言が浴びせられていたことは想像に難くありません。それでもめげなかったアイスランドの女性たちに、心から敬意を表したいと思いました。

フレイン・パウルソン駐日大使は、「ジェンダーの問題は競争ではなく、パートナーシップで克服される。連帯と尊敬し合う共生で作られるもの。平等というのは上から降ってくるものではなく、女性が常に世界を作ってきたという足取りのことです。時代は違うが勇氣は同じ。次の世代は必ずや世界的な平等を自然なものとして受け継いでいってほしい」と語っています。

駐日大使の言葉に強く頷くのですが、さて、私たちはアイスランドの女性たちのようにできるのでしょうか？この映画は、今後もどこかで上映される機会があると思います。皆さん、本当にお勧めです！観てくださいね。

<紹介> あすてらす国際女性ウイーク

3月1日(日)~3月15日(日)

■会場 県立男女共同参画センター「あすてらす」ホール

■記念映画上映

・日時:3月7日(土) 14:00~15:45

・記念映画上映:「私たちの声」(2022.イタリア・インド・アメリカ・日本 112分)

世界各国の映画界で活躍する女性監督と女優が集結し、女性を主人公に描いた7本の短編で構成されるオムニバス映画。

